



清水けんいち 市政レポート

政策討議資料
第16号
2011年4月

この度の、東北地方太平洋沖地震に見舞われ、甚大な被害を受けられた皆様に、心からお見舞い申し上げます。

宮城県亶理町へ、皆様から御協力いただきました支援物資を届けてきました!



被災地の凄まじさを改めて感じます



市朝5時に深谷役所を出発



亶理町は仙台市の手前の沿岸部に位置し、被災により陸の孤島と呼ばれております。人口35,585人、11,442世帯で、今回の震災により、死者229人、行方不明者66人、避難者数2,219人(3月31日現在)支援が遅れている地域です。

被災地では、地震から3週間が過ぎ、日々、必要とする物資が変わってきております。清水けんいちが現地の役場職員と連絡を取りながら、必要としている下記の物資を短時間で集め4月2日午前5時に深谷市役所を出発し届けてまいりました。

現地は、明らかに津波被害で悲惨な状況でした。今後も継続的な支援が必要であると感じて帰ってきました。

また今後は深谷市においても、本当の意味での防災計画見直しと、他市との災害支援協定の早期締結を提言して参ります。

亶理町への援助物資一覧

ランドセル	24個	シャープペン	500本	小松菜	10箱
下着(男・女・子ども用)	400着	深谷ネギ	100kg	からし蓮根	30箱
靴下(男・女・子ども用)	600足	キャベツ	20箱	いちご	5箱
サランラップ	150本	レタス	10箱	梅干	2瓶
サンダル	100足	きゅうり	20箱		
靴(子ども用)	200足	ほうれん草	10箱		

清水けんいちからのお願い

“被災地の子どもたちに向けて”

甚大な被害を受けた地域では、現在も必死の復旧作業が続いておりまして、日々その状況が変わっております。去る3月15日には友人の東北大学医学部震災支援室長から依頼を受けまして全国の仲間とともに援助物資を現地に輸送しました。

そして、今は、子どもたちが新学期に向けて文房具がなくて困っているという情報が入り、深谷市PTA連合会に呼びかけ、未使用のノートや鉛筆、消しゴムなどを集めて友好都市である田野畑村を中心とした岩手県沿岸の市町村に送ることになりました。つきましては御協力いただける品がございましたら、市内の各小中学校までお届け下さい。御協力宜しくお願いいたします。

【ご挨拶】

皆様の、日頃からのご支援ご協力に、心より感謝申し上げます。市議会議員として、日々、市民皆様のため、深谷市発展のため精進しております。日頃の議員活動や市政状況を、市民皆様に御報告し開かれた政治を実現して参ります。これからも、御意見や御要望を聞かせていただき「住みやすく・暮らしやすく・子育てしやすい街」深谷の実現に向け、活動して参りますので、変らぬご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。

【議会報告】

深谷市議会 平成23年度 第1回定例会3月議会が終了しました。

主な議案

- ・深谷市一般会計予算(可決)〔概要を裏面に記載しております〕
 - ・深谷市医師育成奨学金貸与条例(可決)
 - ・深谷市老人福祉センター条例の一部を改正(可決)
 - ・深谷市公民館条例の一部を改正(可決)
 - ・深谷市都市公園の一部を改正(可決)
- (他、市長提出議案53件・議員提出議案1件)

速報

議員定数を28人から26人に削減する条例を、清水けんいちが議案提出者となり上程し賛成多数で可決しました。

《ここに注目パート1》“議員定数削減で痛みを分かち合う!”

深谷市の議員定数は、現在34名ですが、前回の選挙終了後に28名とする条例を議員提案により可決していました。ですが、その後のリーマンショックなどの社会情勢により、市の財政状況は税収入

の減少や生活保護費の増加などで、このままでは将来に不安を残すため、賛否両論ありましたが、公民館やグラウンドなどの使用料の見直しや住民票などの発行手数料の値上げ、更には補助金や事業の見直しが決まりました。こうしたことは、市民皆様に負担を強いることになり、“議員も痛みを分かち合う”という観点から、更なる議員定数削減を上程して可決承認されました。2名削減による効果は年間で約1590万円で、4年間で約6360万円です。

《ここに注目パート2》“子宮頸がん予防接種補助金!”

防げるガンと言われております、女性特有の子宮頸がんですが、今議会で“子宮頸がんワクチン接種事業が承認されました。対象者は中学1年生から高校1年生までの女子となっております。

《ここに注目パート3》“医師確保推進事業”

深刻な医師不足への対応として、即戦力の医師3名の確保、そして、一定の期間深谷市内の病院に勤務することを条件として、研修医・医学生を対象とした研修資金及び奨学金貸与事業を実施して、一層の医師確保に向け動き出します。

医師不足に関しては、深谷だけの問題ではありません、そして医師が少ないのではなく、都会に医師が集中して、地方にこないという現象になっているのが実態です。これを改善するには“医師確保事業”も大切だと思いますが、医師を含めた誰もが“住んでみたい街・深谷”を創り上げていかなければなりません。清水けんいちが「魅力ある街・深谷」の実現を目指します。



清水の私見

3月15日 清水健一の 一般質問と答弁(要約)

※震災の影響で、今回の一般質問は中止となりましたが通告していた質問に対し、執行側より回答が出されましたので掲載させていただきます。



「格物致知」

「物を格して、のち知に至る。知に至りて、のち意誠なり。意誠にして、のち心正し。心正して、のち身修まる。身修まりて、のち家整う。家整いて、のち国治まる。国治まりて、のち天下平なり。」

中国古典「大学」にある一文です。

他人の顔は、よく見えますが、最も身近な自分の顔は見えません。ですから、自分自身を正すためには、常々の心の内なる鏡に、客観的に映して自らを省みなさい。その際、心の鏡が曇っては、自分自身が正しく映らないから、いつも心が澄み切った状態を保つこと。自分自身を正して知恵を極めていくことが、国を治め平和を保つ根本であると言う教えです。

今の政治家や官僚に求められる教えではないでしょうか。

議席番号3番・清水健一、発言通告書に基づき質問に入ります。

質問1 環境に優しい深谷づくり(LED照明)

環境に配慮して経費削減をする取り組みとして、市内にある10,197本あります道路照明等をLED照明にすることで、年間約5,400万円掛かっています電気料金が削減され、その他に年間約3,500万円掛かっています設置管理費も削減することができて、専門家の試算では年間約250万円の効果が見込めます。環境に優しく、しかも経費が抑えられるLED照明の導入をするべきと考えるがいかがでしょうか。

答弁 自治会からの設置要望が多いことから、現在は安価な蛍光灯照明危機で対応していますが、今後は、LED照明を含め、環境に配慮した灯具の選定、設置費用、電気料金などの経費削減やすでにLEDを導入している他市町の状況なども踏まえて研究してまいります。

質問2 環境に優しい深谷づくり(ペーパーレスの職場環境)

民間オフィスでは少しでも紙の使用を抑えることで、経費削減、仕事の効率化、環境への配慮を行なっています。市役所全体で、年間に何枚の紙が使われているのか。そしてどんなコストダウンが図られているのか、その方法と金額を示して下さい。

答弁 市役所内で使用している用紙の枚数は、A4コピー用紙に換算しまして約12,097,000枚です。印刷に掛かる用紙1枚のコピー代は平均3円程度です。印刷機を利用した場合は1枚あたり約2円の費用が掛かります。経費削減の方策は、大量に印刷する場合は印刷機で作成するとともに、両面印刷や電子データによる資料作成を推進しているところです。

清水の考え この質問の裏には、行財政改革のため手数料や使用料の値上げや補助金の見直しを行ない、市民皆様に負担をお願いしているのに市役所内部では、何もしていないでは困りますよ!という指摘がしたかったのです。市役所内部には、まだまだ沢山の無駄があると見受けられます。自らが襟を正して行財政改革推進を行っていただきたいものです。

質問3 魅力ある深谷づくり(深谷の魅力の発信)

昨年秋に開催されました「ねぎサミット」では、テレビで5回ほど紹介され、その経済効果は3,600万円と言われております。また、2月には「アド街ック天国」の放映がなされ、全国的に深谷の知名度が上がった訳ですが、一方では合併で広域化したことにより、自分が住んでいる市内に、あのような施設や史跡があったのかと、知らない市民が居るのも事実です。他にも深谷市には多くの無形文化財や自慢できるものがたくさんあります。それらをお金を掛けずにユーチューブなどを使って市政チャンネルや地域チャンネル、施設チャンネルを設け、市内はもちろん、全国にも発信すべきだと思いますが考えを聞かせてください。

答弁 市のPRにつきましては、各種メディアへの情報提供やホームページを使って行なっていますが、議員提案のユーチューブなどを使ったサービスなどについても、今後調査研究してまいります。

質問4 魅力ある深谷づくり(窓口遠隔相談システム)

このシステムは総合支所や公民館などにテレビ電話を設置することで、市民が本庁舎まで足を運ぶことなく、相談ができるというシステムで、最近、全国各地で導入が進められているものです。市民サービスの利便性向上と地域間格差解消のため導入すべきと考えますがいかがでしょうか。

答弁 議員お話のように、このシステムは事務の効率化と満足度の高い住民サービスの観点からも積極的に検討していくべきだと思います。まずは、総合支所に試験的設置を検討していきます。

質問5 魅力ある深谷づくり(人口増加への取り組み)

国全体の人口減少を止めるのは難しいことと認識しておりますが、深谷市の人口を増やすことはできると思っておりますが、企業誘致などのほかにも、先進地では農村部の空家を、市が紹介し都心から団塊の世代を中心とした皆様に移住してこれら活性化に繋がっている事例もあります市のお考えを聞かせて下さい。

答弁 人口増加への取り組みは企業誘致の積極推進や中心市街地の活性化を中心に行ってまいりましたが、議員質問の移住という施策につきましても、先進自治体の状況を把握し調査研究してまいります。

平成23年度当初予算案について

平成23年度当初予算編成では、選択と集中を念頭に、救急医療体制の確保、将来を担う子どもたちの学習環境の充実、新規雇用や新たな財源確保に繋がる企業誘致の促進など、将来を見据えた積極型の編成となりました。

予算規模

(単位：千円)

	平成22年度		平成23年度	前年度対比	
	【当初・骨格】	【6月補正後・肉付後】		【6月補正後との比較】	
一般会計	39,309,125	45,935,268	49,593,300	3,658,032	8.0%
特別会計	18,594,961	18,594,961	18,508,213	△ 86,748	-0.5%
企業会計	8,756,330	8,756,330	10,360,178	1,603,848	18.3%
計	66,660,416	73,286,559	78,461,691	5,175,132	7.1%

※平成22年度予算は、2月に小島市長就任となったため、当初骨格予算でスタートし、その後補正・肉付がされました。

今年度からの新たな事業

○中学生補修学習事業

進路決定を控えた中学3年生の中で学習に不安を感じ、原則、塾に通っていない生徒の学習を保障するため、教員が中心となり、大学生ボランティアを活用し、放課後の時間に各中学校で補習授業を行なう。期間は9月～12月を予定しております。

○学校総合支援員配置事業

児童虐待や保護者対応など、学校が抱えている問題の解決に向けてのアドバイスや児童生徒の安全指導、補習授業支援を行うために各中学校区1名の支援員を配置する。支援員は職務経験豊富な退職教員を予定している。

清水健一連絡先

〒369-1246 深谷市小前田2406-8
TEL 048-584-0717

FAX 048-584-0396

ホームページ：http://www.shimizu-kenichi.jp(ブログ公開中)

E-mail：info@shimizu-kenichi.jp



プロフィール

昭和36年1月27日生まれ(50才)

家族構成 父、妻、子供3人(6人家族)+愛犬シヨコラ(男の子)

- 埼玉県立熊谷工業高校 卒業
- 社団法人深谷青年会議所 第35代理事長
- 深谷市PTA連合会 会長
- 深谷市立花園小学校 PTA会長
- 深谷市立花園中学校 PTA会長
- 埼玉県立深谷高校 PTA会長
- ふかや市商工会 理事
- 深谷市議会 議員 建設委員会委員長

このレポートは旧花園地域には折込により全戸配布しており、他の地域の皆様には年2回郵送させていただきます。郵送希望の方を紹介していただければ郵送させていただきますのでFAXやメールでは是非、御紹介して下さい。